

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年4月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300450
法人名	株式会社ケイシン
事業所名	グループホーム太陽の家
所在地	鹿屋市今坂町12405-25 (電話) 0994-44-6581
自己評価作成日	令和2年3月5日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人は県内に複数の事業を展開し、幼児教育・高齢者福祉・障害者福祉等の施設その他農園や農作物の直販所を運営しています。運営者は太陽のごとく「わが身を燃やして万物に恵み(愛)を」との思いで『太陽の家』と命名し、相手を思いやる「敬心」の心を大切にしています。職員はその理念の下、入居者様に和顔・愛語で接し安心と安全を提供し、入居者様に寄り添った質の高い介護を目指しています。また、地域密着型サービスとして、地域との交流や地域サロンのお手伝い、認知症カフェを毎月行い、認知症になっても安心して暮らせる町作りに貢献しています。さらに、24時間医療連携体制を整備し、看取り介護も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「限りない愛」を大切にされたケアに取り組んでおり、優しい介護を目指している。また、このことは職員間にも当てはまると考え、相手を思いやる目線を大切にしながら関係性を築いている。

地域密着型サービスの意義を踏まえた理念と目的、運営方針を掲げ、理念を補足する形で年度毎の介護目標を立てている。

法人が所有する交流センターで毎月実施している認知症カフェに利用者と共に参加し、地域の認知症に関する相談に応じている。これらの活動は、他の事業所や機関につなげる役割も持っているため、行政とも密に連携を図りながら日々支援業務にあたっている。

隣接する保育園の夏祭りや運動会に参加したり、中学生の職場体験の受け入れや事業所主催の夏祭りに地域住民にも参加してもらうほか、地域のサロンにレクリエーションインストラクターの資格を持つ職員が手伝いに参加するなど、積極的に地域に出かけ交流している。

A棟にはリフト、B棟には特殊浴槽を備えているため、重度化し入浴が難しくなった利用者でも入浴することができる環境にある。

感染症対策としての換気や加湿に加え、定時の消毒、県外からの家族の帰省時には一定期間休暇を取るなど、徹底した取り決めと対応がなされている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域に根差した入居者主体理念を掲げ理事長の思いとともに介護者の介護目標をホームに掲示し、介護の基本となるように努めている。	理念の「限りない愛」を大切に考え、日々利用者と向き合うと共に、地域に根差した共同生活住居を目指し交流している。また、年度毎の介護目標を職員が話し合い作成し、理念を補足している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の行事に参加している。又隣接する保育園と年7回以上の交流をしている。認知症カフェを毎月開催し、地域の方の認知症予防や啓もう活動を行っている。	地域の運動会や保育園の夏祭り、運動会等に参加するほか、中学生の職場体験の受け入れや認知症カフェ、地域サロンに出かけ交流している。また、日常的に散歩や買い物に出かけた際に、地域の人々と挨拶をしたり、話を交わしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域サロンに毎月職員を派遣している。認知症カフェを毎月開催し、認知症予防や健康に関する勉強会を行っている。介護に関する相談も受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や家族代表地域代表の方、市役所の方に参加していただき、入居者の状況・活動報告研修の状況・事故報告等報告し、サービスの向上に活かしている。	会議には家族代表や民生委員、行政職員等が参加し、利用者の状況や活動内容について報告している。参加者からは、エアコンの取り替えについてや職員数が足りているのか等の意見をもらい、業務に反映させている。また、毎回食事を食べてもらい、意見を伺うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議や他の会合などで連携を取り事業所に必要な情報を得ている。</p>	<p>行政には、書類提出時や法改定時の疑問、相談事がある時に出向き意見を求めている。また、行政からは連絡メールを多くもらい情報を得ている。「大隅介護事業所連絡協議会」による研修会には可能な限り参加し意見交換をしている。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員会を3カ月に一回開催し、言葉の拘束も含め身体拘束につながる事象はないかスタッフ全員で話し合っている。</p>	<p>身体拘束廃止に関する研修会を年1回実施するほか、職員会議でも定期的に組み込み話し合っている。外出しそうな様子を察知した時は無理に行動を止めることはせず、さり気なく見守り、職員が連携して声をかけ、自然に事業所に戻る環境を作り出すようにしている。言葉による拘束についても、繰り返し話し合うことで注意喚起につなげている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティングで勉強会を取り入れ全職員で理解を深め、虐待防止に心掛けている。管理者は職員の心のケアを心掛けている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会や勉強会に参加して理解を深めている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分時間をかけて重要事項説明書に基づきホームの理念や介護に関する考え方を説明している。改定時は家族会で説明同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や家族会で意見を聞き運営に反映させている。入居者様は日常の会話や仕草から意見や思いを把握するように心がけている。	来所時に家族が話をしやすいよう、当日のリーダーを玄関に記載するほか、職員からも近況を報告したり、気付いたことを尋ねるなど、必ず意見を聞くようにしている。年2回、家族会を実施しており、職員の名前が分かりやすくしてほしいと要望があり、名札を下げると介護する際に危険につながるため、シャツに名前を入れるか検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見や気づきをだしてもらい、運営に活かしている。年2回個人面談を行っている。	職員からは、業務の合間や申し送り時、職員会議で意見を聞くほか、忘年会等の食事会を実施したり、年2回、個別面談を実施している。勤務表作成時には、希望する休みを尋ね、可能な限り叶えられるよう調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎月管理者会議で運営状況や職員の状況を把握し、職場環境や条件などの整備を行っている。又各自が向上心を持てるように資格取得のバックアップも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>モチベーションをあげる勉強会や職場環境を整える話し合いを行っている。レベルアップの研修や資格取得の支援をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流や情報交換をしている。又、協議会を通じて視察等も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し、家族などから心身の状況や生活歴・既往歴・要望等を聞き、入居前を不安を和らげるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に介護の状況や悩み・困っていることなどをお聞きし一緒に考えながら支援していく姿勢で信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と本人を交えた会話の中から必要な支援を検討している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を手伝っていただいたり、料理や季節の行事などの生活面で入居者様から教えていただく機会を意図的に作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の役割をケアプランに位置づけ、夏祭りやクリスマス会など一緒に過ごす機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と馴染みの美容院・外・食墓参り・買い物等家族の協力を得て馴染みの関係が途切れないように支援している。	入居前の馴染みの関係を、本人や家族からは基より、これまで担当していたケアマネージャーや病院の相談員からも情報を収集し、アセスメントシートに記録している。馴染みの商店やお墓参りなど、家族と職員が協力し合い訪問している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うお友達とおしゃべりができるように座る位置を変えたり、入居者同士の関係性を把握して、支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な方は退去後も交流を持っている。入院中の方はお見舞いに行ったり担当の相談員と連絡を密に取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動に気を配り申し送りやミーティングで情報を共有し思いをくみ取れるようにしている。	本人が上手く表現できない場合は、好きなことやしたいことを日々の様子から汲み取り、支援につなげている。把握した内容は、申し送りノートに記録すると共に、朝夕の申し送り時にも内容を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や入居に至った経緯を家族に聞いたり、本人との談笑のなかで暮らし方の話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡ノートで一人一人の状況を確認している。又、毎月のミーティングで生活状況や気づいたことをスタッフ間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の希望や主治医の意見を把握し、職員の気づきや意見を反映させて介護計画を作成している。	毎月の職員会議で利用者状況を確認し、半年もしくは状況に変化が見られた時等随時評価し、ケアプランに反映させている。また、往診時に得た医師からの情報も参考にケアプランに組み込むようにしている。身体状況の変化時や思いや意向が変化した場合には、その都度、状況に即したケアプランに作り直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアの結果を個人記録に記載し、職員間で情報共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に必要な日用品の購入や買い物支援、通院の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回はドライブや公共施設への外出を計画している。又、ボランティアを受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診体制がある。又入所前のかかりつけ医の受診を希望される場合は、受診時情報提供書を提示している。緊急時は職員が医療機関に同行する。	利用前の受診の経過を把握し、入居後も希望するかかりつけ医を受診できるほか、希望により訪問診療に切り替える利用者もいる。受診時の内容は、申し送りノートに記録したり、タブレットにて管理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師が常勤で勤務しており24時間対応できる体制である。介護職員がとらえた情報を看護職員に相談している。看護職員は観察項目などを介護職員に伝えている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時介護サマリーを添付し、状況を伝えている。入院中看護師や医療相談員と密に連携を取り早期に退院できるように努めている。必要時退院カンファレンスを事業所主導で行うケースもある。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時看取り指針の説明を行っている。重度化した場合は主治医と家族と会し、今後予測される経過や終末期に向けた方針を話しあい、職員・家族・主治医と共有しながら、看取りに取り組んでいる。又、年1回は看取りに関する家族の意向を確認している。</p>	<p>看取りの指針を入居時に説明し同意を得るほか、状態が変化した場合等随時、家族や医師を交えてカンファレンスを行い、気持ちの変化を確認し把握するようにしている。特に看取りに関する研修計画は立てていないが、利用者の状態や状況に応じて、随時、重度化や看取りに関する勉強会の機会を設けている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命救急の講習を年1回は受け実践に備えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>保育園と合同訓練や消防署立ち合いの防災訓練を実施している また、緊急装置に地域の住民に連絡が行く体制になっている。</p>	<p>夜間想定を含む災害訓練を年2回実施するほか、救急救命講習を消防署や協力医療機関も参加して実施している。各居室のネームプレート裏に「避難」と記入しており、緊急時に裏返すように決めている。備蓄については、飲料水や米、レトルト食品を約3日分準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳や権利の重要性を認識し不適切ケアについて勉強会をしている。	認知症や不適切なケアについての研修会を実施し、羞恥心への配慮や声かけの仕方について勉強している。ポータルトイレを使わない時はカバーを掛けたり、個人のカルテは外部の目に触れないよう、カーテンで目隠しをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の気持や権利を守る事を重視し、声掛けや対応を行っている。余暇の過ごし方や、洋服選び等本人に確認しながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を配慮しながら入居者様の生活リズムにあわせて食事や入浴、昼寝、レクリエーション等を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	訪問散髪が2カ月に1回ある。又、自分の行きつけの美容院の支援をしている。衣類が汚れたら、すぐ更衣している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・食器洗い・お盆拭き・下膳等職員と一緒にやる。献立は担当職員が作成しているが季節感のある食材選びや行事に合わせた、献立にしている。	夕食は配食サービスを利用しているが、朝食と昼食は利用者と一緒に調理の下ごしらえや準備をしている。重度化に伴い外食は難しくなったが、季節メニューを提供したり、お弁当を取って食べるなど、食事を楽しめるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量を確認している。心不全のある方は尿量測定を行っている。また、体重測定を月1回行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に合わせた口腔ケアを行っている。定期的に歯科衛生士に口腔の状態をチェックしてもらいケア方法の指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿チェック表を活用し入居者ごとの排尿パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を心掛けている。	排泄チェック表を付けて、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導につなげている。加齢に伴い、おむつ外しが難しくなってきたが、可能な限りトイレで排泄できるようケアプランに組み込み、職員全員が統一した方針で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便習慣を付けるように朝食後にトイレに座っていただいたり個々に合わせた便秘対策を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者のその日の体調に合わせて入浴を支援している。入浴拒否のある方は、タイミングを考えたり声掛けや誘導を工夫している。	週3回、午前中に入浴としているが、希望があればいつでも入浴は可能である。入浴を楽しめるよう入浴剤を用いたり、ゆず湯を提供している。入浴したくないと言われた時は、無理強いすることのないよう、気を配りながら誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝の時間はその方のペースに合わせている。また、個々の状況を見て昼寝を促したり、ソファでくつろぐことを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬の説明書を整理し全職員が確認できるようにしている。変更があった場合は申し送りノートに記載し、全員が把握できるようにしている。服薬時はダブルチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野でその方の力を発揮できるようなことをお願いしている。又、感謝の言葉を伝える。経験や知恵を発揮できる場面を作る。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事で初詣・バラ園見学・紫陽花見学・コスモス見学・ミカン狩りお買い物ツアーを実施している。又家族の協力で週1回外出している方もある。	初詣や花見、バラ園見学やみかん狩りなど、季節感ある外出計画を立てるほか、地域の運動会や保育園児とも積極的に出掛け交流している。買い物ツアーでは、欲しい物を自分で選び、支払いをもらうことで刺激が得られるようにしている。外出すると表情がよくなるため、積極的に出かけられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族よりおこずかいを預かり、買い物ツアーで本人が使えるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族の電話を取り次いだり本人の要望で電話できるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングの天井が高く柔らかい採光が得られる。季節ごとに壁画を入居者様と一緒に製作している。気候のよい日はテラスでお茶会などを行う。</p>	<p>A棟にリフト、B棟には特殊浴槽を備えているため、介護度の高い方でも入浴することができる。また、浴室内暖房も備えている。トイレは車椅子の方でも出入りしやすいよう、一部ドアをカーテンに替えている。リビングには利用者と職員が一緒に制作した季節の飾りや保育園児の作品を掲示している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールのテーブルやソファの配置を考え入居者様同士会話ができたり、ソファでくつろげるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族写真や仏壇等馴染みの物を置き、居心地のよい居室空間作りを心掛けている。</p>	<p>エアコンに電動ベッド、クローゼット、洗面台を備えており、自宅から持ち込まれた馴染みの椅子やテレビ、仏壇を居心地よく過ごせるよう動線を考慮して設置している。希望があれば冷蔵庫の持ち込みも可能である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや居室はやりやすく目印を付けたり、手すりを設置している。状況に合わせて、洗濯物を干したり畳んだり、台所仕事を無理なくできるように支援している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない